

# 鹿大ジャーナル

鹿大広報

鹿児島大学が発信する最先端情報マガジン

<https://www.kagoshima-u.ac.jp/>

特集

鹿児島大学(旧制七高)×熊本大学(旧制五高)共同企画

明治維新150周年

七高×五高 これからも変わらぬ絆を、ここに。

潜入ルポ ～学びの部屋～

## 男女共同参画を考える

農学部食料生命科学科  
渡部 由香 准教授

先輩からのメッセージ

OB: 株式会社アップルシード・エージェンシー  
代表取締役 鬼塚 忠さん

研究室からSCHOLAR INTERVIEW

## 生物の進化過程を模倣した問題解決

理工学研究科情報生体システム工学専攻 小野 智司 准教授

## ブラジルアマゾンの地域研究と多文化共生

法文学部地域社会コース 酒井 佑輔 講師

鹿大トピックス

## 学生表彰

ドイツ総領事が学長を表敬訪問、講演会を開催  
鹿大「進取の精神」支援基金への寄附者様ご芳名一覧 ほか

進め! 鹿大生

## 病気の子どもたちに 健康な子どもと同じ体験を届けたい

医学部医学科6年生 山本 道雄さん

## さつつんが行く!

海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設



鹿児島大学(旧制七高)×熊本大学(旧制五高)共同企画

しちこう

七高

明治維新150周年

これからも変わらぬ絆を、いっしょに。

ごこう

五高

今号の特集は、鹿児島大学広報と熊本大学広報との偶然とも言える繋がりから生まれた共同企画です。熊本大学広報誌「熊大通信(1月号)」からバトンを託された「鹿大ジャーナル207号」が、全力でお届けします。

平成30年(2018年)は、明治維新から150周年という節目の年です。今なお世界では、同じ国内での内紛が後を絶ちませんが、我が国においても、ほんの150年前まで国内を二分するような激しい戦いが繰り返り広げられていたとは、現在の穏やかで平和な日本では想像すらできないことでしょうか。

激動の時代、その舞台のひとつは、「九州」でした。明治維新の変動の末期には、西郷隆盛率いる薩軍と官軍が、敵味方に分かれ、激しい戦いを

繰り返していました。戦いの終焉のち、しばらくして旧制七高と旧制五高の野球部が定期戦を開催することになります。この交流戦は、一時中断を含め、大正、昭和、平成と、3つの時代を超えて今も脈々と続く伝統行事となっています。

このように、七高と五高は、名称が鹿児島大学と熊本大学になった現在も交流を続けているのです。今号の特集では、両校の生い立ちや現在の姿について比較しつつ、紹介したいと思います。



七高本館

薩摩藩による日本最初の洋式紡績工場(鹿児島紡績所)に、工場指導者として招聘された英国人技師用の宿舎が、後に移築され、第七高等学校造士館本館の教官室として利用されました。時を経て、その後現在の場所に再度移築され、旧鹿児島紡績所技師館(異人館)として一般公開されていますが、七高時代の関連建築物としては、現存する数少ない建物となっています。





鹿児島大学の現在の学章：鹿児島大学のアルファベットの頭文字「K」をデザインしたものです。今、まさに飛び立とうとしている姿を「鳳」の形にデザインし、歴史と伝統に輝く鹿児島大学のキャンパスを巣立つ卒業生が世界の舞台を翔ようとしている姿をシンボル化しています。



五高、七高とは高等学校令（1894年）により設置された現在の大学の前身となる高等教育機関です。当時、熊本大学は旧制第五高等学校、鹿児島大学は旧制第七高等学校（造士館）と呼ばれていました。因みに、第一〜第八までの旧制高等学校は、ナンバースクーとも呼ばれ、それ以降に設立された旧制高等学校は、ナンバーではなく、校名に設置地名が付されたため、ネームスクーとも呼ばれています。両校とも太平洋戦争後の1949年（昭和24年）に、新制大学として正式に認可・設置され、現在の熊本大学と鹿児島大学に至っています。



五高本館

第五高等中学校（後の第五高等学校）の本館として1889（明治22）年に完成しました。建物はラフカディオ・ハーンや夏目漱石が教鞭をとった当時のままの教室棟で、五高の歴史を語る様々な資料を展示する資料館となっています。（平成28年熊本大地震による被災のため休館中です。）



熊本大学の校章は、熊本市の市木であり、キャンパス内にも多く植えられている「銀杏」がモチーフとなっています。



# 七高しちこう 鹿児島大学

## ◆沿革

鹿児島大学の起源は、1773年に設立された藩学造士館にさかのぼります。その後明治以降に設立された第七高等学校造士館をはじめ各種の高等専門学校を統合し、昭和24年に新制国立鹿児島大学として発足しました。

## ◆校風

鹿児島大学は、江戸末期から明治期に活躍した先人達の意志を現在にも引き継ぎ、「進取の精神」「進取の気風」をキーワードとして、あらゆる困難にも立ち向かうことの出来る人材育成を目指し、学生のチャレンジ精神の醸成に努めています。学生の自主学習支援の拠点「学習交流プラザ」では、ガラス張りの開放的な空間の中で、グループ学習やサークル活動の展示等で利用されるなど、多様な人々が集う活気に満ちた環境となっています。

## ◆学部

鹿児島市内の3カ所(郡元・桜ヶ丘・下荒田)のキャンパスに9学部と9大学院研究科(平成30年4月より共同獣医学研究科が新設され10大学院)を擁し、約9000名の学部学生と約2000名の大学院生が在籍している総合大学です。南九州から奄美群島を含む南北

600キロもの広大な地域を鹿児島大学の活動フィールドとして捉え、自然・文化・社会・産業に基づく教育研究を展開しています。

## ◆教育

教育面では、地域に根ざした総合大学としての使命を果たすべく、地域人材を輩出するため、学部横断的な教育プログラムの枠組として、「地域人材育成プログラムフォーム」を開設しました。地域就業に主眼を置く「かごしまキャリア教育プログラム」と、地域の歴史や伝統文化、自然を学際的に学ぶ「かごしま地域リサーチ・プログラム」の2つのプログラムで構成され、インターンシップやフィールドワークなどの実地体験を行うことよって、社会における実践力を身につけることを目的としています。また、法文学部のアドバンスト科目授業「アクティブ・ゼミ」



では、出水市の地域活性化並びに課題解決のため調査研究をまとめ、学生が地域活性化に向けた提案や市民とのワークショップを開催するなど、地域に密着した取組を行っています。

## ◆研究

地域特有の課題解決を目的とした研究

「島嶼・環境、食と健康、水、エネルギー」や地元根ざした焼酎・発酵学、地域防災研究を推進するとともに、鳥インフルエンザや実験動物モデル等の卓越した研究を促進しています。

一方、電波



望遠鏡<BERA>による天の川銀河の構造解析、革新的がん治療薬の実用化を目指した研究ならびにエイズの研究など、世界的水準の研究も行っています。

## ◆留学・国際交流

地域に根ざした総合大学を目指す一方で、世界へ目を向けていった薩摩の先人達に習い、「グローバルな視点を有する地域人材育成」を目指し、入試制度では、国際バカロレア入試や外部英語試験への

優遇制度を導入しています。また、「学生の海外研修を支援する」「学生海外研修支援事業」や海外で研究発表を行う学生を支援する「学生海外学会発表支援事業」など学生への支援も充実しています。





# 五高

熊本大学

## ◆沿革

熊本大学の起源は宝暦7(1756)年に創設された藩校「再春館」、細川藩の菜園「蕃滋園」にさかのぼります。その後、明治期に創設された第五高等中学校をはじめとする各種の高等教育機関を統合し、昭和24年、新制国立熊本大学が発足しました。

## ◆校風

熊本大学では、根元的な特質を社会に広く訴えることを目的としたコミュニケーションワードとして「創造する森 挑戦する炎」を掲げています。総合大学として、知の創造、継承、発展に努め、知的、道徳的及び応用的能力を備えた人材を育成することにより、地域と国際社会に貢献することを理念としています。

## ◆学部

熊本市内の3カ所(黒髪、本荘、大江)のキャンパスに7学部7大学院教育部・研究科を擁します。約8000名の学部生と約2000名の大学院生が在籍する総合大学です。赤煉瓦造の五高記念館(旧制五高本館)、化学実験場、表門をはじめとする国指定重要文化財や登録有形文化財などの建造物が歴史の薫りを漂わせています。

## ◆教育

地域を学ぶ学問分野として用意されている「肥後熊本学」では、「歴史」「文化」「社会」「自然」「環境」「生命」の6つの分野を通して熊本の身近な事象を見つめ直すことにより、そこから得られた情報を学生自身で「知」に変えていくことを目的としています。「文化」では夏目漱石とラフカディオ・ハーン、「環境」では熊本の水環境、「生命」では水保病の社会史など、熊本や熊本大学に縁のあるテーマを取り上げ、講義形式の授業のほか、eラーニングによる学習の機会も設けられています。



## ◆研究

文部科学省の「研究大学強化促進事業」に採択され、生命科学、自然科学、人文社会科学の3分野において研究のレベルアップに取り組んでいます。すでに国際競争力を有する発生医学やエイズなどの生命科学、「KUMADAIマグネシウム合



金」を開発した材料工学やパルスパワー・衝撃エネルギー研究などの自然科学において世界水準の成果をあげています。また、熊本藩主細川家や筆頭家老松井家等に伝えられた江戸時代の歴史資料10万点以上を保存・管理し、教育研究に活用しています。

## ◆留学・国際交流

平成26年度文部科学省スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」において牽引型24大学の一つに採択されました。地域のグローバル化を牽引するとともに世界レベルの研究拠点としての地位を確立することを目指しています。

平成29年度から「グローバルリーダーコース」を文学部、法学部、理学部および工学部の各学部部に新設。第五高等学校の「剛毅朴訥」の精神を受け継ぐGOKOH School Programという教育カリキュラムにより、グローバルリーダーの育成を目指します。まずグローバルリーダーに必要な能力や専門基礎力を学び、3年次以降は高度な専門能力を修得します。また、セミナーや留学、インターンシップ、フィールドワーク等を通してグローバルに活躍できる資質能力を身につけます。





# 熊本大学



**グローバル  
教育カレッジ棟**  
グローバルカレッジ棟（平成28年4月完成）には、4つの教室と、日本人学生と留学生の交流の場となるラウンジがあります。英語による教養教育科目（Multidisciplinary Studies）の授業のほか、在学生の英語力向上を支援する授業外活動（English-Talk Show）や、高校生、高専生に、大学入学前に国際的に学ぶ環境を提供する「熊大グローバルYouth キャンパス事業」のイベントなどを実施しています。



## 発生医学研究所

日本でただ1カ所「発生医学」の名を掲げた研究所が熊大発生医学研究所です。その出発点は1939（昭和14）年に設立された、熊大の前身である熊本医科大学附属の体質医学研究所です。熊本地震では研究機器が落ちて壊れ、研究遅延だけではなく高額な被害を出しました。この経験を踏まえ、同じことを繰り返さないために始まった「固定プロジェクト」を学内外に発信しています。

# 鹿児島大学



**学習交流プラザ**  
学生の自主学習支援の拠点として設置された「学習交流プラザ」は、ガラス張りの開放的な空間で、グループ学習室、学習交流ホール、学習ラウンジやサークル活動の展示スペースが設けられています。プラザ内では、個別スペースを活用したディスカッションが活発に行われたり、学習や研究の合間のリフレッシュに利用され、学生のお気に入り場所となっています。また、1階にはフードコーナーが併設されており、学内外自由に利用可能。学生曰く、「バスタ類やプレート類」がおすすめとのこと。

キャンパス

見どころ

案内



## 水産学部附属練習船 かがしま丸

学内では、「かまる」の愛称で親しまれている水産学部所属の練習船です。水産学部生の海洋実習や全国の教育関係共同利用拠点としても大活躍しています。



ココが良かった！

**深見 紗奈子さん**  
熊本大学薬学部薬学科4年  
出水中央高校出身

### 充実した学びの環境の中で成長しています。

薬学部のある国立大学のうち、鹿児島が一番近いということもあり熊大へ進学しました。薬学部は独立キャンパスであり、学部生から修士・博士課程まで同じキャンパスで学んでいるので、縦のつながりが密です。とくに3年次からは研究室に所属し、教授や先輩に学びながら実験や研究を行っています。また、研究室全員がオン・オフともに仲良く、「飲みニケーション（飲み+コミュニケーション）」を大事にしています。そこから生まれる発想や交流の広がりもあります。

薬剤師の国家資格を取得することも一つの目標ですが、熊大の薬学部は研究にも力を入れているので、論理的思考力や目標に向かう姿勢というものが積み重なっていくように思い、とても充実感があります。



ココが良しぞわんさあ！

**後藤 菜摘さん**  
鹿児島大学法文学部法政策学科3年  
熊本北高校出身

### 居場所がたくさんある温かい場所です。

受験前、鹿大に初めて来てヤンの並木道を歩いた時、南国らしく明るいキャンパスに惹かれました。入学後は、この景色と同じように温かい居場所がたくさんできました。学生スタッフを務めているボランティア支援センターや就活でお世話になっている就職支援センターでは、職員の方と雑談をしたり、悩みを相談したり、いつもお世話になっています。また、ゼミでは法律の勉強や社会科見学のほか合宿、旅行、親睦会などのイベントも多く、充実した楽しい毎日です。

鹿児島は食べ物もおいしいし、霧島、指宿など観光地にも恵まれています。新幹線を利用すれば、鹿児島中央駅と熊本駅の間は50分もかかりません。熊本の両親も鹿児島を気に入って、よく温泉に浸かりに来ています。最初聞き取れなかった鹿児島弁ですが、いまや自分も訛ってしまうほどです。



# 五高七高対抗戦

## OB野球大会



1919(大正8)年から1926(大正15)年までの8年間、五高龍南会(五高の校友会)と七高校友会との間で野球と陸上競技の対抗戦や連合演説会が行われました。勝った方は、翌年、地元で開催できるという特権があり、敵地に赴く際は、貨車に巨大な太鼓を積み込み、ほぼ全校生徒が応援に駆けつける一大行事でした。市街地には応援団が繰り出し、それぞれの市民にとっても夏の大きな楽しみの一つとなっていました。

しかしながら、1926(大正15)年、武夫原で行われた野球戦で勝利した七高応援団が、五高寮歌を揶揄した替え歌を歌ったことで騒ぎとなり、以降、両校の対抗戦は中止されてしまいました。戦後、1946(昭和21)年7月、20年ぶりの五高七高野球戦が復活。1948(昭和23)年まで行われました。

出典:『第五高等学校 熊本大学五高記念館図録』



### 編集後記

2016年4月夜、熊本を震源とする地震が発生しました。鹿児島でも相当な揺れを感じましたので、震源地の状況は想像を絶することだったと思います。テレビで、取材陣の撮影用ライトに照らされた熊本城の屋根瓦から大量の粉塵が舞い上がり、城全体が今にも崩れ落ちそうな場面を沈痛な想いで見ていたことを昨日の事のように記憶しています。

鹿児島には桜島、熊本には阿蘇山というように両県とも火山を有しています。自然災害は、時と場所を選んでくれます。野球部OB定期戦のように、100年超の時代を超えて続く絆を大切に、有事の際にも、支え合えるような良好な関係・交流をこれからも築いていきたいですね。

(鹿児島大学広報センター)

両校OB野球大会については、熊本大学広報誌「熊大通信 Vol.67 2018 WINTER」でも紹介されています。















株式会社アップルシード・エージェンシー

代表取締役 鬼塚 忠(おにつかただし)

鹿児島県出身。1984年 鹿児島大学水産学部入学。1年半後に休学しロンドンへの語学留学、海外放浪生活を経て1989年復学。1991年鹿児島大学水産学部卒業(海洋社会)。海外放浪生活の後1997年 イングリッシュ・エージェンシー・ジャパン入社。2001年10月 東京において作家エージェント会社「アップルシード・エージェンシー」起業。現在に至る。

著書:『風の色』(講談社) 2018年映画化。『花戦さ』(角川書店) 2017年映画化。日本アカデミー賞優秀作品賞受賞。『Little DJ』(ポプラ社) 2007年映画化。『カルテット!』(河出書房新社) 2012年映画化。『海峡を渡るバイオリン』(河出書房新社) 2004年フジテレビ45周年記念ドラマ化。文化庁芸術祭優秀賞受賞。『恋文讃歌』(河出書房新社)、『僕たちのプレイボール』(幻冬舎) 2012年映画化など多数。





## 旺盛な好奇心と行動力で道を切り拓いた青春時代。

広い知識と判断力。そしてちょっとした運と勘でチャンスをつかめ!!

### 作

家を発掘しマネージメントする作家エージェン

ト業を、国内で初めてビジネスとして立ち上げたのが鬼塚忠さんだ。作家を発掘し、出版社に売り込み、編集者との交渉を行い、出版にこぎつけるまでの煩雑な作業を作家に代わってこなす。それまで、作家と編集者との間で進められていた日本の出版事情に、「維新」を起こした、業界の革命児なのである。さらに「花戦さ」「Little DJ」「カルテット!」など、人気映画の原作を次々と世に放つベストセラー作家としても活躍の域を広げている。その独創的すぎる人生航路について、新宿に構えるオフィスで伺った。

鬼塚さんは「鹿大への進学を熱心に推す高校の空気に押されて」本学へ進学。高校時代に引き続きサッカー部に入部したが、上下関係の厳しい体育会系の気風が肌に合わなかった。「それに、鹿大でサッカーを頑張ったとしても、その先に未来があると思えなかった」。広い世界で大成する

には英語だ、と鬼塚さんは部活を辞めるばかりか大学をも休学。アジア、中東を放浪しながらイギリスへ渡った。「視野を広げようと日本でも新聞を5、6紙購読していました。が、実際に海外で異文化に触れる体験は全く別物。思考の幅は格段に広がりました」。

復学し、無事に卒業すると再び海外へ。インドやイスラエル、ロシアなど世界20カ国を3年間放浪した。帰国後、国内で職を求めたが、3年の間にバブルは弾け、職歴のない既卒者に社会は冷たかった。40社余りから不採用通知を受け取った挙句、外資系の企業にようやく滑り込んだ。出版エージェントという仕事との出会いだった。学問としての文学の素養がなかった鬼塚さんの配属先は営業事務。経理や営業の仕事の傍ら、教室に通って身につけたパソコンの知識を駆使して社内の電算システムを構築。さらに1日20冊の本に目を通すことを自らに課し、著者エージェントとしてのセンスを磨いた。「自分の存

在感を示すため、朝から晩まで働きました」。努力が実を結び、海外作家のエージェント業を任されるようになったものの「身近な人たちの書くものをプロデュースしたくなつて」36歳で会社を辞め、独立起業を果たした。

「スポーツ選手や医師、弁護士は、目標に向かって努力し、それを結実させるところに価値がある。けれども、そうじゃない人は、目標を持つことより目の前の仕事が大。自分に合う、面白い仕事を一生懸命やっていくと必ずチャンスが巡ってくるんです」。チャンスを見極めるために大切なことは「知識と判断力、思考力、そしてちょっとした運と勘。学校では教えてくれないことが多いけど」と鬼塚さん。「本当のところ、小学校から大学までに学んだことより3年間の海外で学んだことの方がはるかに大きいですよ」。この誌面で語ることにやないかもしれないけど、と声をひそめ、鬼塚さんは目をしばたかせた。

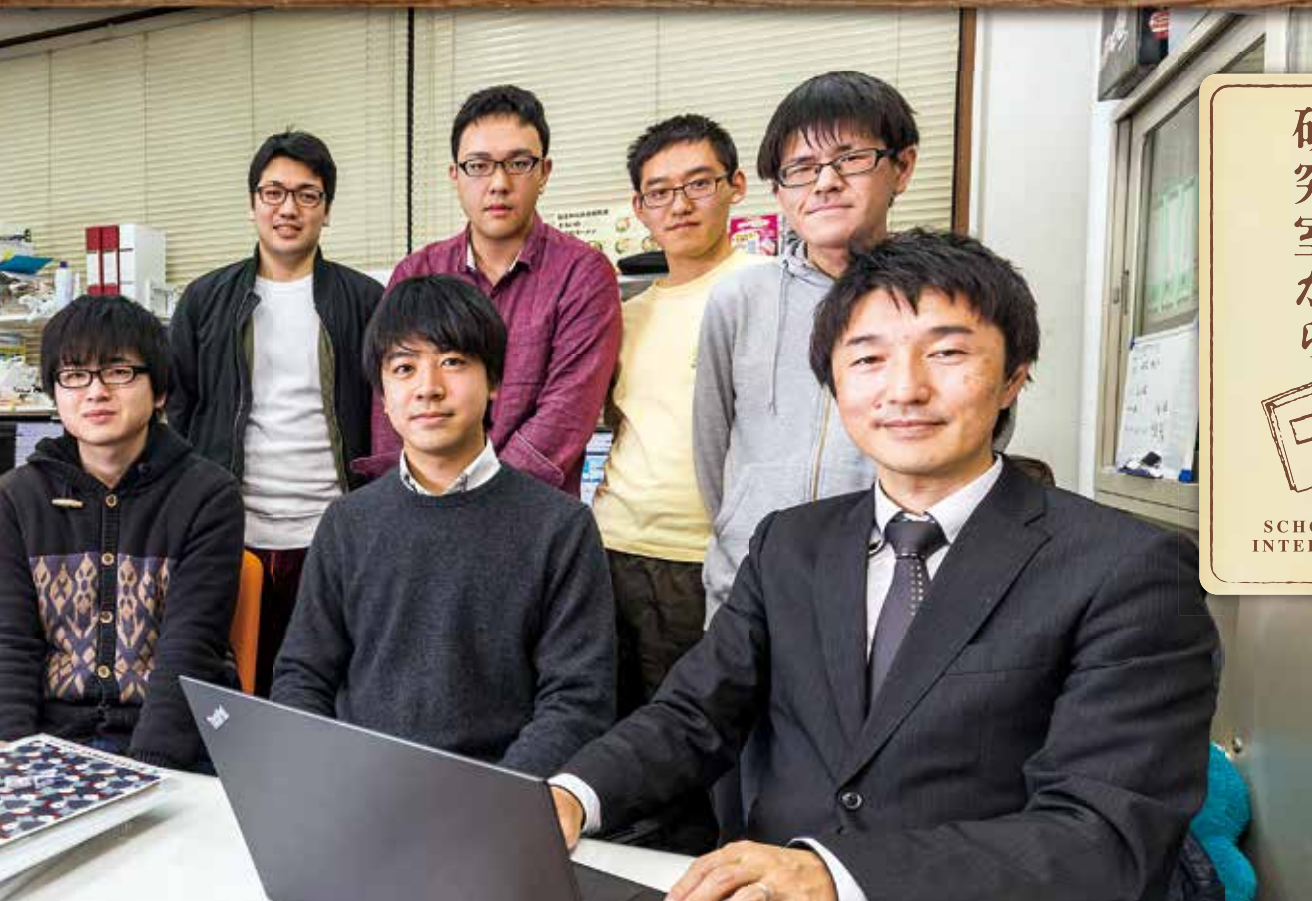




## 研究室から



SCHOLAR INTERVIEW



## 生物の進化過程を模倣した問題解決

人工知能(AI)の専門家として、さまざまな問題を解決するシステムの開発に携わっている小野智司先生。その手法として導入しているのが、生物の進化過程を模倣した「進化計算」と呼ばれるアルゴリズムである。進化計算とはどういうものか、進化計算にできることは、そして進化するAIとの上手なつきあい方とは。AIのイロハについて、小野先生は一つ一つ丁寧に答えてくださった。

### 「さつつん」がいっぱい

小野先生は、本学のマスコットキャラクター「さつつん」の木製パズルを手に出迎えてくれた。ピースを並べると凸凹はきれいに噛み合わさり、隙間なくつなげた。平面を隙間なく埋めることのできる「平面可能図形(タイリング)」である。オランダの画家・エッシャーのタイリングを、AIによる進化計算によって形成する技術を小野先生は開発した。

進化計算を使っている製品では、N700系新幹線や小型ジェット旅客機MRJが国内では有名。工業製品のデザインを設計する場合、まず候補となる答えを数学的に計算し、それを改良して形状を絞り込んでいくのが一般的だ。一方、進化計算では、先に100個くらいのデザイン案を作り、その中で求める解(答え)に近い2個の案を親に見立て、その親から子どもをまた100案くらい作る、ということを繰り返す。生き物の進化のプロセス自体を真似た、ランダム性を重視したアルゴリズムだ。「両方の親のよいところを引き継いだ子

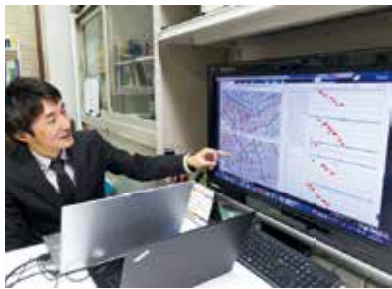
どもが偶然生まれてくることを期待します。何世代も進化のプロセスを繰り返すことで当初予想していなかったようなよい解が得られるところが面白いところ「です」。平面充填」が可能なデザインは、材料を無駄なく使うことができるといふメリットも見込むことができ、産業界の関心を集めている。

小野研究室では、平面充填デザインの開発以前から、規格を遵守した装飾QRコードの制作や、QRコードの不正複製防止用の「電子透かし」制作に進化計算を導入し、研究成果をあげている(※1)。学生の頑張りには支えられているんです、と先生は繰り返し言われた。

### 「働き方改革」の一端を担う

進化計算は、複数のパラメータを同時に調整する問題に適用できる技術、と小野先生は言う。「例えば、昔の小さな飛行機では重量のバランスを取るため、左側の席と右側の席で乗客の体重が同じになるように座席配置を決めていたと聞きます。その際、体重以外にも、それぞれの希望や





規格を遵守した  
装飾QRコード



## Scholar Interview

# 小野 智司 准教授

理工学研究科  
情報生体システム工学専攻



**Profile** 小野 智司(おの・さとし)  
 筑波大学大学院博士課程工学研究科修了 博士(工学)・筑波大学2002年  
 2001年 日本学術振興会特別研究員  
 2003年 鹿児島大学工学部情報工学科 助手  
 2010年 鹿児島大学大学院理工学研究科情報生体システム工学専攻 准教授(現職)  
 ■所属学会: 電子情報通信学会、情報処理学会、人工知能学会、進化計算学会、IEEE  
 ■専門分野: 計算機科学、人工知能、進化計算  
 ■研究テーマ: 大域的最適化や機械学習の要素技術の研究と実問題への応用

同行者など配慮する必要がありませんよね。そのような入り組んだ問題の答えを出すことに進化計算は適している。

進化計算の手法は、煩雑な人的資源マネージメントにも応用することが可能だ。現在、ある企業からのオーダーに応え、働き方改革の実現に向けて導入する施策づくりへの技術協力を行っている。エージェントシミュレーションにより数十人の1年間の業務を仮想的に実行し、進化計算により施策の立案を支援する。グラフやマップなどで「可視化」を行うことで、現場のエンジニアの理解を得やすいシステム構築を目指している。

### AIに支配される?

いつかAIは意志を持ち、人間は支配されてしまうのだろうか? 「ある種の自我を持って汎用的に問題を解けるような強いAIは、なかなか実現できないと考えます。2045シンギュラリティ(※2)が言われることもあり、議論は分かれるところですが、現状は、例えば画像処理など、一つの問題に特化した

弱いAIが、専門家レベルの処理能力を持つようになったところ(※1)です。自分の仕事を奪うくらいAIを作ることができたら、研究者としてむしろ本望ですね、と先生は笑った。

「けれども、今の子どもたちの学習能力はAIに劣る、という研究結果も出ています(※3)。記述式試験に慣れていない世代は、記憶が名詞の羅列になりがちで、分脈を読み取れない傾向にあるという。暗記ばかりの勉強法に不安がある、と教育者の表情が曇った。「大事なことは、手を動かしてノートをつけ、見返すこと。記憶領域としてノートを使うことで、文脈・構造を把握する助けとすることです(※4)。AIに使われる側の人間にならないためには、暗記ではなく、構造や意味を理解することが大切と鹿児島における数少ないAI研究者は声に力を込めた。

※1 本誌既刊No.194に詳述  
 https://www.kagoshima-u.ac.jp/about/No194.pdf  
 ※2 2045シンギュラリティ(Singularity)とは技術的特異点と訳されるコンピュータテクノロジーが指数関数的に進化を遂げた結果2045年頃にはAIが人の知能を超えるという仮説  
 ※3 新井 紀子「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」東洋経済新報社、2018年12月  
 ※4 大塚 作「二種を超える真のICTツールの実現に向けて」電子情報通信学会誌100(12)、1385-1390、2017年12月



## 研究室から



SCHOLAR  
INTERVIEW

### ブラジルアマゾンの地域研究と多文化共生に向けた教育・地域連携・ノンフォーマル教育(学校外の教育)

これからは、さまざまな人を巻き込んだ地域の活性化をプロデュースするのも大学の大きな使命。酒井佑輔先生は、南米アマゾンで見聞したノンフォーマル教育(学校外の教育)を鹿児島のみちづくりに応用し、学生と留学生、地域を巻き込んだ地域活性化に取り組んでいる。多岐にわたる研究・教育活動について伺った。

学校がなくても教育はできる

高校生の頃から国際協力に携わりたいという夢を持っていた酒井先生。大学時代には、世界70カ国以上で住宅支援をする国際NGOハビタット・フォー・

ヒューマニティの活動に参画し、フリーピンで家を作る活動に従事した。またJICA(独立行政法人国際協力機構)が健康なまちづくりプロジェクトに取り組んでいたブラジルへ留学。スラムでのボランティア活動などを通して社会格差の問題に関心が向いていった。卒業後、国内自動車メーカーのメキシコ法人勤務を経て大学院に進学。再びブラジルへ留学し、アマゾンに位置するパラ州トメアスという農村研究にいそしんだ。「ベレンというパラ州の州都から車で約4時間の農村で、日系移民も数多く住む場所です。協同組合や文化協会があつて、住民は自分たちで学びあいながら農業を発展させています。そこでは環境にやさしい持続可能な農業が営まれていました」。コンビニでも目にする、大手製菓会社の開

発した人気チョコレートの箱を先生は手にとった。「トメアスの方たちが栽培したカカオが使われているんです」。先生の声からは、ブラジルの農村への親愛と敬意が伝わってきた。

多文化共生の必然性

「ところで、いま鹿児島にどれくらい外国人がいるか、ご存じですか?」。話が、地球の裏側から鹿児島へ回ってきた。「およそ8000人です。右肩上がりに増えていて、特に地方には技能実習生の外国人が増えています」。労働力不足を補うため、否応なくグローバル化が進みつつあることを先生は指摘する。「移民の受け入れ是非を議論するというより、もうこれだけ少子高齢化が進むと、いまの40、50代以下の世代は介護も外国人に頼らざるを得ない」。足元に国際化の波が押し寄せている現状をきちんと認め、外国人にとっても住みやすいまちづくりに取り組む必要があるという。

「イスラムの人って過激派なん





出水市でのフィールドワークでは武家屋敷で茶道を体験。



酒井先生の主宰する「南米における進取の気風研修」の一コマ。2週間の南米研修で学生たちはワールドワイドな視野を身につける。



「騎射場のきさき市」当日は実際に騎射場を歩いて危険箇所等を確認した。  
Photo production Style.41重久清隆



## Scholar Interview

# 酒井 佑輔 講師

法文学部地域社会コース  
かごしまCOCセンター 社会貢献・生涯学習部門(兼務)



### Profile 酒井 佑輔(さかい ゆうすけ)

東京農工大学農林共生社会科学専攻、博士(学術)、東京農工大学(2017年9月)メキシコ日産自動車株式会社、国際アグロフォレストリー研究センター等を経て現職

■所属学会: 日本国際理解教育学会、日本環境教育学会、日本社会教育学会、日本ラテンアメリカ学会

■専門分野: 社会教育、生涯学習、地域研究(ブラジル)

■研究テーマ: ○Unlearn、ノンフォーマル教育、多文化共生、移民 ○鹿児島県多文化共生に資する教育実践に関する研究 ○ブラジル法定アマゾン領における移民の学びに関する研究

でしょうか? というような声をよく聞きますが、それはメディアの影響による先入観。実際に会ってみることが大切です。鹿大にはせつかく約300人の優秀な留学生がきてくれているわけですから、彼らと日本人学生らが協働し地域課題に取り組む授業やプロジェクトを展開しています」。

### ハートをオープンにしよう!

2016年から出水市の地域づくりに取り組んでいる。2017年には授業の一環で日本人学生7名、留学生6名で出水市をフィールドワークし、外国人観光客呼び込む上で課題を分析し、市民向けの報告会を開き、アイデア提案を行った。「えらい人が国際化や地域活性化を一方的に唱えるより、学生が地域に入り地域の皆さんと一緒に活動した方が地域の方々には響きやすい。学生の力はすごいです。現在も地域との交流は続いており、ムスリム(イスラム教徒)用メニューを作る計画や、お祈りをする場

として空き家を提供する話も進んでいる。

また、酒井研究室では、大学が立地し多くの留学生が居住する騎射場地区の防災まちづくりにも取り組んでいる。「地震のない国から来た人は防災訓練をした経験がない。実際、昨年の地震が起きた時、為すすべもなくたずんでいた、という留学生の話も聞きました」。2017年12月に開かれた交流イベント「騎射場のきさき市」ではマップ作成に携わり、防災情報を盛り込んだ。さらに、イベント当日には留学生と学生、地域の人たちと一帯を歩き、危険な場所や避難所などを確認しあった。防災マップづくりはあくまで手段であり、できるだけ多様な人を巻き込んで、みんなで課題意識を共有しながら1つのものを協働し作り上げる過程そのものが目的だった、と先生は言う。「それが地域の寛容な文化を育むことになる。メンタリティをオープンにすることが求められていると思います。温厚な笑顔と快活な笑い声が絶えない取材の時間は、あつという間に過ぎた。





# 学生表彰 (平成29年度)

## 鹿児島大学稲盛賞(平成15年度から)

本学を卒業された京セラ株式会社名誉会長 稲盛和夫氏のご寄附による学生表彰制度で、①学業に専念し成績優秀で品行方正な最終年次の学生、②社会の期待にこたえるような業績を挙げた学生、③その他同等以上の表彰に値する行為等があったと認められる学部学生及び大学院学生を表彰するものです。

学部	学科・課程		受賞者	学部	学科・課程		受賞者
法文学部	経済情報学科	4年	玉利 昌子	歯学部	歯学科	6年	山中 あずさ
	人文学科	4年	加島 佳奈	工学部	環境化学プロセス工学科	4年	上田 悠里
教育学部	学校教育教員養成課程(技術専修)	4年	恵谷 林太郎		化学生命工学科	4年	長谷部 稜弥
	学校教育教員養成課程(英語専修)	4年	西村 拓朗	農学部	生物生産学科	4年	西上 明里
理学部	物理科学科	4年	西 健太		生物資源化学科	4年	猿渡 春菜子
	生命化学科	4年	飛鳥井 滉也	水産学部	水産学科	4年	高山 拓哉
医学部	医学科	6年	川嶋 康平		水産学科	4年	田中 志帆
	保健学科	4年	宮元 康成	共同獣医学部	獣医学科	6年	大原 優美子

## 鹿児島大学工業倶楽部賞(平成17年度から)

公益社団法人鹿児島県工業倶楽部との包括連携協力協定の目的に基づき設けられた学生表彰制度で、鹿児島県地域産業の発展に貢献する優秀な研究業績等を挙げた大学院研究科に在学する最終年次の学生を表彰するものです。

研究科名	専攻科名	受賞者
理工学研究科 博士前期課程	物理・宇宙専攻	2年 小林 領太
農学研究科 修士課程	生物資源化学専攻	2年 小園 蘭

## 進取の精神学生表彰(平成23年度から)

学生憲章の趣旨に即し、困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を実践し、優れた活動実績や業績等を収めた学生及び学生団体を表彰します。

	団体・個人名	理由等
最優秀賞	水産学部魚食普及サークルPESCA	水産学部魚食普及サークルPESCAの活動と地域活性化の取り組み ～「騎射場ぶり祭」を中心に～
優秀賞	田 坂 裕 輝	課外活動「鹿児島大学陸上競技部活等」に伴う進取の精神について
準優秀賞	西 修 平 Z e e	シーアスパラガスの商用栽培技術確立までの道のり 鹿児島大学Zeeの奇跡

# 経済支援制度 (平成29年度)

## 大学独自の制度

### 1 種村完司私費外国人留学生奨学金(平成22年度から)

本学名誉教授で元教育・学生担当理事の種村完司氏からの寄附金を原資として、本学に在籍するアジア諸国からの私費外国人留学生を支援するため、平成22年度に設立されました。今年度は5人の私費外国人留学生に各20万円を支給しました。

工 学 部	2人	中国、ベトナム
人文社会科学研究科	2人	中国
医歯学総合研究科	1人	中国

### 2 ボランティア支援センターの学生支援(平成23年度から)

災害ボランティア活動を行う学生に対する経済的支援として、平成23年度に「鹿児島大学災害ボランティア活動支援事業実施要項」を定め、災害ボランティア活動費の一部助成を行う制度を開始しました。同制度により、平成28年度は、九州北部豪雨や熊本地震、東日本大震災の復興地等で様々な支援活動を行った学生27人(H30.1月末現在)に対して活動費の助成を行いました。

## 国等の制度

### 1 授業料免除

	学部・大学院	
前期	全額免除	848人
	半額免除	768人
後期	全額免除	780人
	半額免除	890人

### 2 奨学生

(平成29年5月1日現在)

	日本学生支援機構	各種団体、育英会	計
学部	3,840人	80人	3,920人
大学院(修士・博士前期)	245人	5人	250人
大学院(博士・博士後期)	44人	9人	53人
大学院(専門職)	2人	0人	2人
合計	4,131人	94人	4,225人





# 学生及び若手教員への海外派遣支援等 (平成29年度)

## 鹿児島大学学生海外研修支援事業(平成22年度から学長裁量経費により旅費を支援)

大学憲章に基づき、自主自律と進取の精神を併せ持ち、かつ社会の発展に貢献し、国際社会で活躍できる人材育成を図るため、学生の海外研修を支援しました。

部局	授業科目名	研修先(国名)	支援人数	部局	授業科目名	研修先(国名)	支援人数
高等教育研究開発センター	太平洋島嶼学特論	ミクロネシア連邦・米国(グアム)	5	医学部	小児看護学概論	韓国	6
共通教育センター	グローバル人材育成(雲南)	中国	6		選択実習(必修科目)	米国、カナダ、ドイツ、インドネシア	12
	海外研修基礎コース in カリフォルニア	米国	8	歯学部	歯学研究 I	インドネシア	3
	北米におけるグローバル人材育成	米国	10	水産学部	海外研修、実用英語(海外研修)	フィリピン	30
	海外研修基礎コース in 東南アジア	シンガポール	13	水産学研究所	Tropical Fisheries	フィリピン	3
	海外研修基礎コース in ハワイ	米国	13	保健学研究科	基礎看護・地域看護学特別研究	米国	1
	国際協力体験講座-タイコース-	タイ	4		周産期医療論	ニュージーランド	7
	国際協力体験講座-ミャンマーコース-	ミャンマー	4	農学部	学外研修	フィリピン	3
	国際感覚を持つバイテク人材育成	タイ	8		食料環境システム学III	タイ	10
海外短期留学 I	米国	13	食料環境システム学特論 II		タイ	4	
海外異文化体験実習(台湾の歴史と多様性を学ぶ)	台湾	5	国際協力体験講座-ミャンマーコース-		ミャンマー	2	
法文学部	海外異文化体験実習(イスラームの多様性を学ぶ)	イラン	12	農学部、農学研究科	国際森林論	ドイツ	14
	文化人類学実習	韓国	18		海外森林・林業事情特論	ドイツ	1
	法律学特殊講義(外国の法を学ぶ)	カナダ	4	農学研究科	国際バイテク・リーダー育成	タイ	2
教育学部	理科教育特講	ドイツ	3	共同獣医学部	獣医学特別研修	米国	1
	国際理解教育調査研究 I	ドイツ	10		獣医学特別研修	台湾	3
理工学研究科	理工系国際コミュニケーション海外研修	米国	9				
合計							239

## 協定校への学生留学の支援事業(平成23年度から学長裁量経費により旅費を支援)

部局	派遣大学	留学先(国名)	人数	部局	派遣大学	留学先(国名)	人数
法文学部	ジョージア大学	米国	1	法文学部	中興大学	台湾	1
	サンゼ州立大学	米国	1		淡江大学	台湾	1
	リンシェーピン大学	スウェーデン	1	教育学部	ジョージア大学	米国	1
	パレンシア工芸大学	スペイン	1		オルデンブルグ大学	ドイツ	1
	ミュンヘン大学	ドイツ	2	水産学部	シドニー工科大学	オーストラリア	1
	ボルドー・モンテーニュ大学	フランス	1		アリカンテ大学	スペイン	1
	レンヌ第2オート・プルトーニュ大学	フランス	1	理工学研究科	シドニー工科大学	オーストラリア	1
	ニューイングランド大学	オーストラリア	1	農学部	サンゼ州立大学	米国	1
	カセサート大学	タイ	1		アマゾナス連邦大学	ブラジル	1
	マレーシアアトラ大学	マレーシア	1	農学研究科	スリウィジャヤ大学	インドネシア	1
	済州大学	韓国	1		ロッテンブルク林業大学	ドイツ	1
	釜慶大学	韓国	2		雲南農業大学	中国	1
	釜山大学	韓国	2	合計			28

## 鹿児島大学若手教員海外研修支援事業(平成21年度から学長裁量経費により旅費・滞在費を支援)

次世代を担う若手教員の海外の教育研究機関における研修を支援することにより教育研究能力等の向上を図り、本学の教育研究の国際的通用性・共通性の向上に資することを目的として設立されました。

部局	人数	研修先(国名)	研修題目
法文学部	2	英国	デジタル時代における映像都市論の構築と国際研究ネットワークの形成
		台湾	台湾における母語運動の参与調査と地域間交流体制の構築
教育学部	1	米国	風・気球・ドローンを用いたリモートセンシング手法に関する研究
理工学研究科(工学系)	1	米国	粘着性液状原料由来粉体の流動性改善に関する粒子工学的研究
鹿児島大学病院	1	米国	頭蓋咽頭腫における遺伝子変異と臨床情報との関連に関する研究
合計	5		



## ドイツ総領事が学長を表敬訪問、講演会を開催

平成29年10月26日、大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館のヴェルナー・ケーラー総領事が前田芳實学長を表敬訪問されました。

歓談では、総領事からドイツの社会の現状やドイツ語に関するお話のほか、ベルリンの壁崩壊時のエピソードについても紹介がありました。また、学長からはドイツの大学教育などについて総領事に質問がありました。最後に学長から「今回、本学でご講演いただくことで、学生もドイツに関心を抱き、視野が広がると思います」と謝辞が述べられました。

その後、共通教育棟311号教室で「2017年連邦議会選挙を終えてー最新のドイツ政治情勢について」をテーマに講演会が開かれ、学生や教職員、社会人など106名が熱心に聴講しました。

講演ではドイツの政党や選挙制度、9月24日の連邦議会選挙の争点と結果、また今後の連立交渉の見通しなどについて総領事から詳細な解説がありました。

講演後の質疑応答では、英国のEU離脱がドイツに与える影響、ドイツと日本の難民受け入れ政策の違いなど、聴衆から活発に質問が出されました。



## 鹿大初企画!! ～秋季オープンキャンパス2017開催

鹿児島大学は、平成29年11月11日に、初の企画として「秋季オープンキャンパス2017」を開催しました。

例年、8月に開催していたオープンキャンパスですが、今年は、台風の影響で一部日程の延期を余儀なくされたため、参加出来なくなった高校生への参加機会の提供や大学紹介の機会を増やすことを目的として、秋季開催を企画したものです。

当日は、大学祭の期間中ということもあり、郡元キャンパス全体が非常に活気に満ちた中、文系、理系それぞれ体験講義や学部別キャンパス探検会、大学進学相談会が催され、県内外から多くの高校生が参加しました。

今回のメイン企画となる体験講義は、理系が理工学研究科小山教授、文系は法文学部酒井講師が担当し、工夫を凝らした講義を披露しました。

半日という短いスケジュールながらも、参加した高校生達は、大学教員や学生達の説明に対し、熱心に、かつ、楽しそうに耳を傾けていました。



### 2017 秋季オープンキャンパス内容

- ・体験講義(文系)・文系学部キャンパス探検
- ・体験講義(理系)・理系学部キャンパス探検
- ・大学進学説明会

## 稲盛和夫鹿児島大学名誉博士からの寄附受納式を挙行

鹿児島大学は、本学工学部の卒業生で鹿児島大学名誉博士(京セラ株式会社名誉会長)である稲盛和夫氏から、京セラの株式100万株のご寄附を頂くこととなり、平成29年11月16日に受納式を執り行いました。

受納式では、稲盛名誉博士から、「母校である鹿児島大学の発展に役立つことをしたいと思い、京セラの株式を贈呈することとしました。株式の配当金を将来性のある学生のために有効に使っていただきたい」と挨拶がありました。



挨拶の後、稲盛名誉博士から前田芳實学長へ目録が手渡され、前田学長から、稲盛名誉博士へ感謝の意を表するため、感謝状の贈呈がありました。

今回の寄附に対して前田学長は、「貴重な御厚志は、本学において教育研究の更なる発展のために有意義に活用させていただきます。今後の日本を担う「進取の精神」を有する有為な人材が育ち、本学がさらに大きく発展していくものと確信しております」と謝辞を述べました。







## 奥 保宏名誉教授への叙勲伝達式を開催

鹿児島大学は、平成29年12月21日、本学名誉教授・奥保宏氏<sup>おくやすひろ</sup>への平成29年秋の叙勲伝達式を学長室で執り行いました。

教育研究功勞の叙勲は、永年にわたり教育研究に従事し、国家または公共に対して功勞が顕著な方に授与されるものです。奥名誉教授は、体育学の分野において本学における教育研究に精魂を傾けるとともに、大学・学会および地域社会の発展に大きく貢献されました。この功績に対し、瑞宝中綬章が授与されたものです。

前田芳實学長から奥名誉教授に勲記と勲章が手渡され、「永年の教育研究に対する多大な貢献が認められたものであり、本学としても誠に名誉なことです。今後とも健康にご留意いただき、益々のご活躍を祈念申し上げます」とのお祝いの言葉が贈られました。



## 南九州プラットフォームと教職員支援機構の連携協定を締結

鹿児島大学と熊本大学が加盟する南九州プラットフォーム\*は、独立行政法人教職員支援機構との連携協力に関する協定を締結しました。

平成29年12月22日に東京の霞山会館で行われた協定締結式には、南九州プラットフォーム代表校の鹿児島大学と教職員支援機構の関係者が出席し、来賓の文部科学省の柳澤好治教員養成企画室長、山口大地教職員課長補佐の立ち会いのもと、本学の前田芳實学長と教職員支援機構の高岡信也理事長が協定書に署名しました。続く挨拶の中で前田学長から「今後も、双方の教育・研修の充実・発展のため、教職員支援機構と南九州プラットフォームとの連携、協力がより一層深まるよう、積極的なパートナーシップを築いていきたい」と挨拶がありました。

この協定締結により、加盟大学の教職大学院におけるカリキュラムの一層の充実だけでなく、教員等の資質向上など、鹿児島県、熊本県の教育改善への貢献も期待されます。

\*教職員支援機構のプログラムの活用や、学校教育関係職員の研修に関連する諸課題に対応するための連携・協力を目的として、鹿児島大学と熊本大学で「南九州プラットフォームに関する協定」を平成29年10月26日に締結。



## 鹿児島商工会議所とのインターンシップに関する意見交換会を開催

鹿児島大学は、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)『食と観光で世界を魅了するかごしまの地元定着促進プログラム』」の事業協働機関である鹿児島商工会議所とのインターンシップに関する意見交換会を1月19日に鹿児島商工会議所において開催しました。

本意見交換会は、鹿児島大学がCOC+事業の教育プログラムとして開設した「かごしまキャリア教育プログラム」において平成30年度から開講予定の「地域キャリア・インターンシップ」の実施に先立ち、地域人材育成におけるインターンシップの在り方について協議することを目的として、鹿児島商工会議所の主催により開催されたものです。

商工会議所側からは岩崎会頭をはじめ31名、鹿児島大学側からは前田芳實学長、清原貞夫理事・副学長(教育担当)、高松英夫理事・副学長(研究担当)及びCOC+事業関係者が出席。岩崎会頭及び前田学長の挨拶に続いて、清原理事から平成29年度に開設した全学横断的教育プログラムの「地域人材育成プラットフォーム」について、高松理事から平成30年度からの「南九州・南西諸島域共創機構」及び「産学・地域共創センター」の改組について概略説明の後、井上佳朗産学官連携推進センターCOC+推進部門長から課題解決型長期インターンシップの概要について説明がありました。



引き続き課題解決型長期インターンシップの意義やその実施における課題等について活発な意見交換が行われ、地域人材育成及び確保に向けた大学と企業との協働の重要性などについて再認識する有意義な機会となりました。

鹿児島大学と鹿児島商工会議所とは平成28年4月に地方創生に関する包括連携協定を締結しており、今後も学卒者の地元定着促進を含め、地方創生に向けた取組を連携協働して行っていくこととしています。



## 食品安全専門人材育成プログラムを開設

1月26日、鹿児島大学は農林水産省において、日本マクドナルド株式会社の協力により、日本で初めて産官学連携による「食品安全専門人材育成プログラム」を開設することを発表しました。

本プログラムは、農林水産省が来年度より予定している産官学連携による食品安全専門人材育成推進における第一弾の取組として、農林水産省からも協力を受けます。

講師は、鹿児島大学の教員と国際的な品質管理システムを構築している日本マクドナルド、農林水産省、鹿児島県、食品安全マネジメント協会ほか、国際基準に詳しい日本を代表する担当者が務めます。

鹿児島大学は、地域の人材育成において中心的な役割を果たしていく使命があり、中でも食品産業は鹿児島県の重要な産業であり、今後海外を含めた発展、展開を支援していく必要があります。一方で、食品安全リスクや管理手法等に関する情報は、地域間で格差があり、大学として、産業界や行政関係の最先端の情報を入手し、人材育成に反映させていく必要があります。

このような背景から、鹿児島大学は、社会人及び大学院生向けに食品安全専門人材育成プログラムを開設し、今後の鹿児島県、九州地域ひいては日本全国の食品関連業界に貢献する人材育成の一翼を担う存在として、高い意欲を持って取り組みます。



## 学生制作による鹿児島県内の学生と企業人をつなぐ情報誌「かごんまが人」刊行

鹿児島大学では、学生憲章の趣旨に則り、学生が企画・運営・実施する様々な活動を支援する「進取の精神チャレンジプログラム」を実施しています。このプログラムは、学生自らが困難な課題に果敢に挑戦し、実践していくことによって進取の精神を発揮することをサポートするものです。

この度、この採択主体である学生団体「KAGOらぼ」(代表:法文学部3年 森下彩絵さん)が、鹿児島県内の社会人と学生をつなぐための情報誌「かごんまが人」を制作しました。

この情報誌は、鹿児島の魅力の一つである「人」を通じて、鹿児島の良さを若者に知って欲しいという思いから、鹿児島の経営者や企業人を学生目線で紹介しました。登場人物探し、取材、記事作成、推敲、さらに県内企業の協力もいただきながら、印刷、製本まですべて学生が行いました。データで見る鹿児島の良さや、企業人へのインタビューなど、様々な切り口による「かごんま」の魅力が詰まった渾身の作品です。

「かごんまが人」は、現在、学内施設や市内のカフェ等にて設置・配布中。今後、Twitter(ユーザー名@kagolabo2016)やFacebook(ユーザー名@kagoyokapuro)でも配信していく計画です。

鹿児島大学は、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」において学卒者の地元定着促進に向けた取組を推進しており、その実働組織である産学官連携推進センターCOC+推進部門は、「KAGOらぼ」の取組について指導・助言をしてきました。

このような学生による主体的な取組の波及によって、より一層の地域の活性化につながるものと期待しています。



## 在京都フランス総領事が学長を表敬訪問

2月21日、ジャン・マチュー ボネル在京都フランス総領事が前田芳實学長を表敬訪問しました。

同総領事は、2016年9月より在京都フランス総領事に着任されており、今回は、鹿児島日仏協会の講演のために鹿児島を来訪。本学とフランスとの教育・研究分野での関係の構築及び将来の更なる交流関係醸成のために、前田学長を訪問しました。

表敬には、清原貞夫理事(教育担当)、梁川英俊法文学部教授、二村淳子共通教育センター講師、畠田谷桂子グローバルセンター副センター長、教育学部特別聴講生のルメール サヴィエ ルイ フランソワ ギーさんが同席し、畠田谷教授の進行のもと、和やかに歓談が行われました。

懇談では、前田学長より歓迎の言葉が述べられた後、ジャン・マチュー ボネル在京都フランス総領事からお礼の言葉と日本の大学との交流促進、特に両国間の留学生交流の推進に貢献したい旨の説明がありました。また、大学間での交流や博物館同士の交流が姉妹都市提携に発展する可能性を大いに秘めているという具体例についても話され、今後鹿児島とも姉妹都市提携を結んで行ければとの期待が述べられました。

今回の訪問を契機に、フランスの大学との交流が更に深まることが期待されます。







## 【寄稿】樟寿会便り

第15回となる平成29年度鹿児島大学樟寿会総会・懇親会が、平成29年11月18日に鹿児島市内のホテルで開催され、44名の会員が参加しました。

総会は、吉田浩己会長の挨拶に続いて、大工原恭会員(平成15年退官)を議長に選出して議事に移り、平成29年度活動等経過報告、平成28年度会計報告の承認の後、鹿児島大学への追加寄附について諮られて、平成27年度の30万円の寄附に続いて、今回新たに20万円の追加寄附を行うことが全員一致で承認されました。

総会に続いて開かれた懇親会には、鹿児島大学から前田芳實学長、島秀典理事(総務担当)、野澤知弘総務部長が来賓として出席されました。来賓挨拶で前田学長は、「鹿児島大学の現状と将来展望」について、また島理事は、鹿児島大学の財政強化の取組と稲盛和夫京セラ名誉会長からの巨額の支援(時価80億円相当の京セラ株式の寄附)があったことなどについて話をされました。

川越昌宣会員(平成7年退官)の乾杯のご発声で開宴した懇親会では、久々に再会した人たちの和やかな歓談に花が咲き、鹿児島大学ブランドの焼酎などが当たる「お楽しみ抽選会」などで大いに盛り上がり、会場全体が楽しい雰囲気になりました。最後は、鹿児島大学と樟寿会の益々の発展を祈念して、野呂忠秀会員(平成28年退職)による万歳三唱で、盛会のうちに会を閉じました。

なお、総会決定を受けて、同年12月8日に吉田浩己会長、竹田靖史幹事長、坂東義雄総務幹事、松村和雄会計幹事が前田芳實学長を訪れ、吉田会長から「鹿大『進取の精神』支援基金」への寄附金(20万円)を贈呈しました。これに対して、前田学長は、「樟寿会の会員の皆様に心より感謝いたします。鹿児島大学の教育研究の発展のために大切に使用させていただきます。」と謝辞を述べられました。

寄附贈呈の様子は、鹿児島大学ホームページの「トピックス」(2017.12.11)に掲載されています。

※鹿児島大学樟寿会は、鹿児島大学名誉教授を会員とする任意団体で、鹿児島大学と密接な連携を保ちつつ、会員相互の親睦と研鑽を図ることを目的としています。



## 鹿児島大学イクボス宣言発信

鹿児島大学では、役員をはじめ、部局長等の管理監督者が一丸となって、自らも仕事と私生活のバランスを取り、働きやすい職場環境の形成に努めるため、イクボス宣言を行いました。

これからも役職員一丸となり、教職員の働きやすい環境の整備に努めます。

### ★イクボスとは…

「イクボス」とは、職場で共に働く部下・スタッフのワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の両立)を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことです。

鹿児島大学は、鹿児島市イクボス推進同盟の加盟企業であるとともに、鹿児島県による「鹿児島県女性活躍推進宣言企業」として登録されており、働きやすい職場環境づくりに邁進していく予定です。

### ★鹿児島県女性活躍推進宣言企業制度とは…

職業生活における女性の活躍を推進するため、女性が働きやすい環境づくり、環境整備、制度の導入、登用や採用目標などに積極的に取り組む企業を「鹿児島県女性活躍推進宣言企業」として登録する制度



## ネーミングライツパートナー募集

学生の教育研究環境の向上のために民間等資金を活用した施設の維持管理を目的として、本学の保有施設やその他財産のネーミングライツ・パートナーを募集しています。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

お問い合わせ先

鹿児島大学施設部企画課 TEL: 099-285-7221  
E-mail: kkikaks@kuas.kagoshima-u.ac.jp  
ホームページ: <https://www.kagoshima-u.ac.jp/naming/>







## 鹿大「進取の精神」支援基金への寄附者様ご芳名一覧

鹿大「進取の精神」支援基金へのご協力を賜りました皆様に心よりお礼申し上げます。お受けいたしました寄附金は、基金の目的に沿って有意義に活用させていただきます。

ご寄附いただきました皆様方への感謝の意を込めまして、ご芳名等を掲載させていただきます。

なお、ご意向により、ご芳名等の掲載をご希望されない寄附者様につきましては、本誌に掲載いたしておりません。

今後とも、鹿児島大学へのご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成30年3月

国立大学法人鹿児島大学

学長 前田 芳實

【平成29年2月から平成30年1月31日までの寄附者様】(順不同・敬称略)

\*印は修学支援事業基金へご寄附の方です。

- |                                                                             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>大久保 弘</p> <p>藤井 伸平</p> <p>宮田 裕二</p> <p>松本 浩二</p> <p>【ご芳名のみ掲載希望の寄附者様】</p> | <p>【二千万円】</p> <p>稲盛 和夫</p> <p>【百万円】</p> <p>神宮 孝一</p> <p>上小鶴 貞子、孝子、圭子</p> <p>【三十万円】</p> <p>吉田 浩己 *</p> <p>前田 芳實 *</p> <p>【二十万円】</p> <p>小山 次郎 *</p> <p>國分 禎二</p> <p>【十万円】</p> <p>佐野 輝</p> <p>江口 正純</p> <p>野口 愛子</p> <p>(日本有機株式会社代表取締役社長)</p> <p>【八万円】</p> <p>林 満</p> <p>【五万円】</p> <p>倉本 恵梨子</p> <p>【四万円】</p> <p>福原 稔</p> <p>佐藤 友昭</p> <p>【二万円】</p> <p>木原 翔太郎 *</p> <p>【一万五千円】</p> <p>木原 菊次郎</p> <p>【一万円】</p> <p>田中 恵理子 *</p> <p>黒仁田 典之 *</p> <p>高松 英夫 *</p> <p>高橋 宏徳 *</p> <p>宮地 理恵子 *</p> <p>【八千円】</p> <p>羽生 信</p> <p>【三千円】</p> <p>今辻 幸二 *</p> <p>花田 義貴 *</p> <p>齋藤 忠継 *</p> <p>北野 淳 *</p> | <p>【ご掲載希望されない寄附者様】</p> <p>百五十六名</p> <p>石根 周治 *</p> <p>佐藤 勇一 *</p> <p>若松 京子 *</p> <p>山口 洋一郎 *</p> <p>赤峰 信義 *</p> <p>亀田 武士 *</p> <p>牧 英樹 *</p> <p>浅山 典久 *</p> <p>川越 明弘 *</p> <p>堀 匡四郎 *</p> <p>植村 満雄 *</p> <p>里 朝義 *</p> <p>二石 孝子 *</p> <p>葉山 義人 *</p> <p>田中 美佐 *</p> <p>永富 弘 *</p> <p>斉藤 良英 *</p> <p>林 和浩 *</p> <p>藤井 健一 *</p> <p>木村 好彦 *</p> <p>政岡 守 *</p> <p>田中 好彦 *</p> <p>宮島 真一郎 *</p> <p>半田 俊幸 *</p> <p>川上 徹 *</p> <p>東 樹志 *</p> <p>宇都宮 民治 *</p> <p>中林 利幸 *</p> <p>中間 洋 *</p> <p>時村 毅 *</p> <p>原田 伸一 *</p> <p>三柳 耕平 *</p> <p>則松 敏廣 *</p> <p>石踊 博之 *</p> <p>田代 聡 *</p> <p>竹田 靖史 *</p> <p>飯干 千浩 *</p> <p>藤田 正人 *</p> <p>鮫島 久徳 *</p> <p>田村 正人 *</p> <p>鬼丸 久徳 *</p> <p>並松 靖子 *</p> | <p>【団体等】</p> <p>【二千万円】</p> <p>岩崎育英文化財団</p> <p>【三百万円】</p> <p>鹿児島大学水産学部同窓会魚水会</p> <p>鹿児島大学工学部同窓会</p> <p>【百八十万円】</p> <p>鹿児島大学理学部同窓会</p> <p>【百万円】</p> <p>株式会社 Misumi</p> <p>株式会社 日阪製作所</p> <p>【五十万円】</p> <p>財団法人米盛誠心育英会</p> <p>【四十万円】</p> <p>鹿児島大学教育学部同窓会</p> <p>【二十万円】</p> <p>鹿児島大学同窓会連合会</p> <p>鹿児島大学OBゴルフ大会</p> <p>坂元醸造株式会社</p> <p>株式会社トヨタレンタリース鹿児島</p> <p>株式会社南日本総合サービス</p> <p>鹿児島大学樟寿会</p> <p>【十万円】</p> <p>株式会社東条設計</p> <p>株式会社ニシムタ</p> <p>鹿児島トヨペット株式会社</p> <p>インフラテック株式会社</p> <p>株式会社エフワン</p> <p>トヨタカローラ鹿児島株式会社</p> <p>【団体等名のみ掲載希望の寄附者様】</p> <p>日本瓦斯株式会社</p> <p>農学部旧助教講師会</p> <p>株式会社南給</p> <p>株式会社コーアガス日本</p> <p>カクイ株式会社</p> <p>鎌田建設株式会社</p> <p>株式会社しんぶく</p> <p>株式会社九州タブチ</p> <p>太陽運輸倉庫株式会社</p> <p>株式会社カクイックス</p> <p>中川運輸倉庫株式会社</p> <p>株式会社フェニックス</p> <p>株式会社エールム</p> <p>済生整体院 *</p> <p>【掲載希望されない寄附者様】</p> <p>九団体</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 鹿大「進取の精神」支援基金へのご寄附のお願い

鹿児島大学は、地域活性化の中核的拠点として、学生のグローバル教育の推進や地域に貢献する人材の育成など教育研究支援の強化に取り組むため、鹿大「進取の精神」支援基金を創設し、寄附のご協力をお願いしております。

つきましては、本基金の趣旨にご賛同いただき、皆様のご協力を賜りますよう、よろしくご協力申し上げます。

なお、本学への寄附につきましては、所得税法、法人税法上の優遇措置の対象となります。

お問い合わせ先

鹿児島大学学長戦略室 TEL:099-285-3101, 3102 FAX:099-285-7034

E-mail: s-kikin@kuas.kagoshima-u.ac.jp

基金ホームページ: <https://www.kagoshima-u.ac.jp/kifukin/>







# 進め！ 鹿大生！ STUDENT INTERVIEW

やまもと みちお  
**山本道雄**さん

(医学部医学科6年生、ボランティア団体「ICF」代表)



## 病気の子どもたちに健康な子どもと同じ体験を届けたい ～ITを活用して健やかな成長をサポートする医学生の志～

「子どもにとって病院は、治療の場であると同時に教育を受けられる場ではなくてはならない」。山本道雄さんがそう考えるようになったきっかけは5年生で臨んだ病院実習です。長期入院を余儀無くされている子どもたちが、一日中ゲームをしている姿を目の当たりにして胸が痛みました。「長く休むと勉強が遅れ、友達と話も合わない。復学へのハードルが高く、不登校になるケースもあると聞きます」。子どもの頃、入院した経験のある山本さんは「なんとかしなくては」という使命感に駆られました。

支援者を募り、2016年9月、医学部生、教育学部生らから成るボランティア団体「ICF (Improve Children's Future)」を設立。病院、学校、教育委員会との間で煩雑な手続きを進めると同時に機材を調達し、同年11月、鹿児島市立病院において小学1年生への遠隔授業を実現。授業を重ねるにつれ、児童は活発になり、退院後、抵抗なく学校生活に溶け込むことができました。

遠隔授業を重ねる一方、院内での自然体験を企画し、海や山での野外体験を取めた動画を制作。2017年秋、大病院に入院中の子どもたちへの上映会を実現しました。「河野(嘉文)教授をはじめとする小児科の先生方、ボランティアスタッフの協力があったからこそ実現できたことです」。全国すべての病院で、子どもが充実した教育を受けられる環境をつくるのは社会の責任。子どもの幸せを願う山本さんのチャレンジは続きます。

### 座右の銘

#### 「困難の中にチャンスはある」

アインシュタインの言葉に“In the middle of difficulty lies opportunity”という言葉があります。煩雑で誰もやりたがらないところにこそ、大きな可能性があると思っています。





# さっつんが行く!

SATTUN's Campus Sketches

鹿大キャンパス漫遊記



鹿児島大学公式マスコットキャラクター

さっつん



Vol.09

## 海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設

海音寺潮五郎記念東京学生宿泊施設は、鹿児島県伊佐郡(現伊佐市)出身の歴史小説家海音寺潮五郎氏のご遺族様より本学が寄贈を受けた世田谷区経堂の海音寺潮五郎記念館を、本学学生の首都圏における就職活動や学生及び教職員が教育・研究等を行う際の東京拠点(宿泊施設)として改修・整備し、平成27年8月から運用を開始しました。

また、本施設の他、県外就職活動拠点として、東京と福岡にサテライト(支援施設)があり、インターンシップや就職活動に多くの学生が利用しています。



## 📷 今号の表紙「乗船実習航海出港式」

水産学部には中型の“南星丸”(全長約42m, 175総トン)と大型の“かごしま丸”(全長約67m, 935総トン)の2隻の附属練習船があり、水産学部の学生、教員のみならず他学部や他大学などからも乗船して海洋環境・海洋生物・漁具漁法・航海・法規に関する実習教育および調査研究に利用されています。

“南星丸”は錦江湾をメインに九州から薩南諸島にかけての沿岸域をフィールドとして日帰りから1週間程の短期航海を行い、“かごしま丸”は主に東シナ海、琉球列島から中西部太平洋をフィールドとして中長期航海を行っています。

かごしま丸で最も長い航海は、夏休み期間に水産学部2年生を対象とした「公海域水産乗船実習」(遠洋航海)です。8月中旬に鹿児島港谷山一区の係留岸壁で出港式が行われ、一か月余りの航海に向かいます。

